

今年度は新学習指導要領の移行期です。先行実施されている教科・領域はもちろん、その他の教科に関しても内容が様々に変わっています。今回のセンター便りでは、体育・外国語・道徳に造詣の深い3人の先生方に、新学習指導要領を踏まえた取り組みについて述べていただきました。

子どもの体力向上を目指して

朝日町立さみさと小学校 教諭 長谷川 亙

昨年度、金沢市で行われた平成20年度子どもの体力向上指導者養成研修に参加しました。そこで学習指導要領の改訂についての講義や実技演習などを通して研修したことを報告します。

新学習指導要領体育科の改訂の趣旨の一つに、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点を重視し、各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、児童の発達段階を踏まえ指導内容の明確化を図る」となっています。このことから、子どもが運動の楽しさや喜びを味わえる学習を工夫することが大切だと思います。

もう一つ、子どもの発達段階を踏まえることも大切です。小学校1～4年生は様々な動きを身に付ける時期です。そして、5・6年生から中学校1・2年生までは、多くの領域の運動を体験する時期、中学校3年生から高校3年生までは、少なくとも一つの運動を選び、継続することができるようにする時期です。さらに、小学校1～4年生は、運動に対して積極的に運動する子どもと、そうでない子どもとに二極化していく時期でもあります。このことから小学校では、だれもができる易しい運動遊びや運動を通して、どの子どもも体を動かす心地よさを味わえるようにすることが大切です。近年子どもの体力低下も伺えます。楽しい運動遊びや運動によって体力を高めるために体を動かす意識をもたせたり、活動を通して基礎的な体力を高めたりするような意図的な働きかけが必要です。

そこで、体育科の学習では体づくり運動の充実を図ることが重視されます。体づくり運動は、体ほぐしの運動と多様な動きをつくる運動（遊び）や体力を高める運動から構成されています。研修では、安田女子大学の徳永先生から体ほぐしの運動を中心に実技を学びました。夏休み中に行われた町授業力アップ研修で、小中の先生方に行っていただいた内容のものです。じゃんけん遊びやうさぎとかめ、シャドー遊び、ミラー遊びなどは、どの子どもも熱中して取り組める活動ではなかったでしょうか。体を動かす心地よさを味わったり、友達との交流を楽しんだりすることができる活動だと思います。また、ペーパーリング遊びは、手首のスナップ強化や体重移動、腰の回転などの運動を含んでおり、投げる動作の基本運動の習得につながる活動だと思います。ケンパや川跳び、じゃんけん双六などは、走・跳の運動をゲーム化することで、走・跳の動きを繰り返し覚えることができる活動です。

このように、子どもの運動欲求の充足、関心・意欲の高揚を図るとともに、体力を高めるための学習を意図的に仕組むことが指導者としての私たちの大切な役目となります。研修で学んだ指導法を生かして、今後も子どもの体力向上につながる授業づくりに努めていきたいと思ひます。



授業力アップ研修会より